



…………… 第6回

小中をつなぐ ポイント

小中連携は、英語教育の大きな課題の一つです。この連載では、小学校と中学校の学びをどうつないだらよいか、そのヒントを述べてきました。最終回の第6回目は、「授業づくりを振り返るポイント」です。

小中連携のポイント

授業づくりを振り返るポイント

POINT 1
活動を3つのタイプに分けて振り返る
(必要な活動は入っているか)

POINT 2
児童・生徒が振り返る場を設定しているか
(活動後の振り返りが大切)

太田 洋

おおた・ひろし

東京家政大学教授

東京都生まれ。2002年東京学芸大学大学院修了。

東京都の公立中学校、

東京学芸大学附属世田谷中学校教諭、

駒沢女子大学教授を経て現職。

小学校英語教科書『Here We Go!』、

中学校英語教科書『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE』

(ともに光村図書)の編集委員を務める。

1. 活動を3つのタイプに分けて振り返る

授業中の活動を、「話す」を例に考えてみましょう。話すためには、内容(何を話すか)と言語(どのような語彙、文法を使うか)とを考える必要があります。そこで授業中の活動を、この2点をもとに分類して、3つのタイプに分けてみました。表1をご覧ください。

	内容	言語
タイプ1	制限あり	制限あり
タイプ2	フリー	制限あり
タイプ3	フリー	フリー

タイプ1…ドリル活動
タイプ2…自己表現,インタビュー活動
タイプ3…トライアウト活動

表1 話す活動のタイプ分け

タイプ1は、話す内容も使う言語も制限する、つまり教師が決める活動です。これには機械的なドリル、つまり文型ドリルなどが当てはまります。

タイプ2は、話す内容はフリー、つまり児童・生徒が決める、ただし使う言語は教師が決める活動です。これは新出文法事項やターゲットの表現を使って、自分のことを話したりインタビューを行ったりする活動です。

そしてタイプ3は、話す内容も使う言語も児童・生徒が選ぶ活動、「まずやらせてみる」活動(私は「トライアウト活動」と呼んでいます)です。

この3つのタイプの活動を、自分の授業の中でそれぞれどのくらい行っているかをチェックすることが、授業づくりを振り返るポイントになります。

さて、小中連携を考える際にどのタイプの活

動が必要になるでしょうか。私はタイプ2と3だと考えています。小学校で習った英語表現は、繰り返し触れて使わなくては身につけません。しかしタイプ2だけでは十分ではありませんね。指定の文法事項や表現を使うだけでは、本当の意味で使えるということにはならないからです。そこでタイプ3の活動、「この内容を話したいときに、自分が知っている表現から選んで使う」経験をさせることが必要になります。つまり、「既習事項を使わせる機会をつくってみよう」というのが、タイプ3の発想です。

どのようなことができるでしょうか。例えば、スリーヒントクイズを作らせる際や、自己紹介などのミニスピーチをさせる際、テンプレートを与えて文型や表現を制限して(指定して)話させるのではなく、児童・生徒に決めさせるといいでしょ

う。自分の授業を活動のタイプから振り返ってみると、あらたな気づきがあると思います。

2. 児童・生徒が振り返る場を設定しているか

次の振り返りのポイントは、タイプ3の活動を行う際に関連しています。タイプ3の活動で、既習事項を活用させた後、どうしていますか。よく見るのが、活動をさせてそれで終わりというものです。

活動をすること自体も大切ですが、私はさせっぱなしで終わってしまうのはもったいないと思います。では、どうしたらよいのでしょうか。この活動をしているときに、児童・生徒は何を感じているかを考えてみるとわかりますね。児童・生徒は「言いたくてもうまく言えない」「こういうとき、英語でどう言ったらいいのだろう」など、言いたいことと言えることにギャップがあるこ

とを感じているのではないのでしょうか。

そこで有効なのが、こうしたギャップを埋めるために、クラス全体で振り返る場をつくることです。活動が終わった後、「言いたかったけれど言えなかったことは何か」を児童・生徒から引き出しましょう。知りたいときが学ぶときです。必要性を感じさせて、それを教えることで、知識を習得することの意味を実感させることができます。また、ここで、個々の学びのよい例を取り上げることで、クラス全体の学びにすることもできます。

振り返り、知識を得たり既習事項を復習したりした後で、ペアを変えるなどしてまた同じ活動をするといいでしょ

う。その後、また最後に振り返ると、より効果的です。

この活動の流れは次のようになります。



「教えてから使わせる」でなく、「使わせてから(必要性を感じさせてから)教える」という流れです。自分の授業の中に、活動後の振り返りの時間はあるかな、と振り返ってみてください。

今回お伝えした2点は、小中連携の授業づくりをするうえで大切なポイントです。ぜひ一度チェックしてみてください。

* * *

6回にわたり、小中連携のポイントを述べてきました。小中連携の授業づくりのお役に立てば幸いです。ありがとうございました。